

Future World 第17号

第4回進路希望調査、今週の木曜日が締切です！

いよいよ北中祭が始まりました。そして来週の日曜日からは、待ちに待った修学旅行となります。進路のこと、受験のことで頭がいっぱいという人もいるかもしれませんが、オンとオフはしっかりと切り替え。行事を目一杯楽しんでいただけたらと思います。

選択 公立高校と私立高校、どちらに通った方がいいのか？

現在、第4回進路希望調査を行っております。例年第1、2回の調査では、8割以上の生徒が公立高校への進学を希望しています。しかし、夏休み明けの第3回ではやや減少傾向となり、私立高校の受験決定を見据える第4回では、私立高校への進学者が急増していきます。これは、私立高校への推薦希望を決意する生徒が増えてくるからです。

私立推薦入試では、定員の50~80%を募集するため、一般入試で受験するよりも合格しやすい傾向にあります。私立高校は、学校法人であるため、生徒が集まらなければ資金が集まらず、学校運営に支障をきたすことから、推薦入試であらかじめ生徒を獲得しようとしています。昨年度は、北中生の学年全体の生徒の49%が私立高校に進学（公立高校への進学者は43%）、このうちの過半数の生徒は推薦入試で進学先を決定しました。（昨年度は、北中開校以来私立高校への進学者が公立高校への進学者を上回りました）

公立高校に進学する最大の利点は、授業料が安いということです。年間の授業料は118,800円で、しかも年収910万円未満の世帯は、就学支援金により無償で3年間通うことができます。私立高校が昨年度から就学支援金により授業料への負担が大幅に軽減されましたが、それでも学校設備費や学年費、PTA会費等の費用が公立高校よりかかるので、公立高校の金銭面でのメリットは多少残っていると言えます。

一方、私立高校ですが、公立と比較すると金銭面での負担は大きいですが、その分、快適な学習環境や設備、手厚い学習支援等、利点はたくさんあります。何よりも大学への指定校枠をたくさんもっている学校が多く、大学進学を考えている生徒にとってはかなり大きな魅力となっています。

前述の通り就学支援金の大幅拡充は、私立高校への進学傾向を一気に加速させる要因となっています。家庭の年収が720万円未満ならば、入学金及び年間授業料42万円相当が控除されることとなります。また、720万円の収入を超える家庭でも、年収910万円未満であれば、多少なりとも控除が受けられます。公立高校と経済格差がかなり縮まったこととなります。

こうしてみると学費はかかるが、私立に通わせた方がメリットは大きいのでは、と誤ってしまいますが、一概にそうとは言えません。公立高校の多くは生徒の自主性を重んじる学校ですが、中には、高校の先生方の努力や熱血指導で毎年、国公立大学に多くの生徒を進学させるような学校もあります。

つまり、公立、私立の分類だけで進路選択を考えるのではなく、自分に合った校風、高校卒業後の進路なども見据えて考えてみることが大切

です。高校はあくまで人生の一つの入り口であり、高校3年間で良くも悪くも大きく変化します。入学したときはハッピーでも、卒業する頃にはアンハッピーな例もあります。だからこそ進路選択は慎重に行うべきなのです。第4回進路希望調査では、いよいよかなり現実的な進路選択を迫られます。それまでに進路選択をとことん考えてほしいです。

私立 vs 公立

